

20～5・20) 思いがけない友情が幸せを運びます。  
 11～6・21) 熱意が通じる語って信用が生まれます。  
 12～7・22) 年長者と衝突の行動は反発を受けます。

★しん座 (10・20～11・22) 首を突っ込んで誤解されそう。  
 ★天秤座 (9・23～10・23) 人前に出る事多し。自分をアピールしてチャンスあり。  
 ★蠍座 (10・24～11・22) 自然と親しんで幸運あり。家庭菜園に挑戦して幸運。

★山羊座 (12・21～1・19) 避けたいところが無難です。  
 ★水瓶座 (1・20～2・18) とっさの機転やヒラメキで、思わぬ幸運を手にできそう。  
 ★魚座 (2・19～3・20) 友情に損得勘定が入るとき。飲食はワリカンが無難。

# 熊野古道

## みちくさし記

2

いにしへの皇族や公家達と庶民がいかに淀川下りの旅を楽しんだか。思いをはせながら、淀川に沿って京街道を歩



天神橋から八軒家浜を望む(大阪市中央区)

淀川下って渡辺津(八軒家浜)へ 絵と文・熱田親憲 題字・熱田泰華

ら乗船し、桂川に合流して一安堵したところ

御用達となっている。大掛かりさ。威光を大う。大阪人に示すため、参勤交代で江戸に向かう紀州藩の大名行列が枚方宿に泊る騒ぎ。吉宗が注文した象を江戸まで運ぶのに、枚方宿に象小屋を別に作った象行列の話など、京に上るの通行シーンのエピソードが詰まっていた。

更には淀川を6時ほど下ると、くらわんか舟で繁盛した三十石船の船着き場を持つ枚方宿がある。江戸時代に京街道屈指のにぎわいを見せた宿場町であった。京阪・枚方公園駅で降りて枚方宿健屋資料館を訪ねると、そのにぎわいを思わす多くの資料が残っている。三

桂川の三川合流点から見える石清水八幡宮に旅の安全を祈願した。京阪・八幡市駅を下車して、合流点手前の背割堤に立ち、桜並木の合間から比叡山延暦寺と共に都の守護の社で

着場となって、大阪観光に一役買っている。船上から見るレトロな大阪市中央公会堂や赤レンガの造幣局などが緑の木々に映え、地上では味わえない風情がある。季節によって楽しめる夜桜見物、夕涼みのコースなどもあり、都会のオアシスとなっている。大阪を訪ねた時はずむ乗船されるといい。淀川は風水書の度に形を変えつつも、熊野詣でで水運が発達。近代化に伴って公的輸送経路となり、明治以降は大阪市水道の水源として、人々の生活に大きな役割を果たし続けている。

# 宿場の癒やしと人間ドラマ

ある八幡宮を仰ぎみると、こもりした美しさを漂わせている。淀川合流点を5時ほど下ると高槻寄りに鶴殿のヨシ群生地があり、野鳥の群れに触れて、旅の解放感に浸れたことであろう。今でも淀川のヨシは茎が太く雅楽器・筆築の吹き口(リード)に適し、宮内庁

館を訪ねると、そのにぎわいを思わす多くの資料が残っている。三十石船に近寄って飲食物を売るくらわんか舟の暴言ぶり。徳川将軍が代わる度に訪れる朝鮮大使節団や琉球使節団が「川御座船」で淀川を遡る一大イベント。そのために近隣28村から人足を募った

参詣者の三十石船も枚方宿は通過点であった。今では56番目の宿場但因で五六市が開かれ、知る人ぞ知るにぎわいである。

淀川を下る御行幸の船宿は、陸路と水路の出会いの場としていろいろな人生のドラマが展開されたようだ。

年創業の永田屋昆布本店(土佐堀通り)を訪ねると、この辺りに旅館が8軒あり、船客で大変なにぎわいだったとのこと。また、8軒の船宿は、陸路と水路の出会いの場としていろいろな人生のドラマが展開されたようだ。

(次回は来年1月25日掲載予定)

泰華